

行歯会だより 第109号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会)

平成28年4月号

【今月の記事】

- 1 口腔衛生学会理事会報告 P.1-
口腔衛生学会での行政職の役割りと今後の展開
口腔衛生学会理事長 宮崎秀夫
 - 2 近畿ブロック会議 P.4-
近畿地区府県・政令市歯科保健主管課長会議 報告
奈良県健康福祉部健康づくり推進課 堀江 博
(1) 府県協議 報告 滋賀県健康医療福祉部健康医療課 小幡 鈴佳
(2) 政令市協議 報告 京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課 橋野 恵衣
(3) 中核市協議 報告 大津市健康保険部保健所健康推進課 藤崎 ともみ
 - 3 千葉県新任歯科衛生士研修会 P.6-
千葉県健康福祉部健康づくり支援課 食と歯・口腔健康班 林 瞳
千葉県船橋市西部保健センター 吉野 ゆかり
 - 4 若手奮闘記 No.8 P.9-
高知県須崎福祉保健所健康障害課 歯科衛生士 柳本祥子
- その他 研修会等のお知らせ

1 口腔衛生学会理事会報告

口腔衛生学会での行政職の役割りと今後の展望

口腔衛生学会理事長 宮崎 秀 夫



初っぱなから個人的な話題で恐縮ですが、私は1952年5月に福岡市で生を受けました。母方の叔父が歯科医であったというだけで地元の九州歯科大学に入学し6年間は何も考えずにぼーっと暮らしていました。資格学校だから卒業したら開業歯科医になることが唯一の道と想像していたので、社会に出てから頑張れば良いと…。ところが、ひょんなことから卒業と同時に大学院生として口腔衛生学教室の門をたたくことになってしまいます。この勉強嫌いな私が。ずーっと後にな

って知りましたが、研究母体である口腔衛生学会の設立総会および雑誌第1巻の発行が1952年の5月であったようです。私の人生は口腔衛生学会とともに歩んできたこととになりますが、これも何かのご縁なのでしょう。

何はともあれ、口腔衛生学会は64年にわたって公衆衛生・疫学などの社会歯学、う蝕・歯周疾患予防を主とする臨床予防歯学、口腔疾患発症メカニズムや歯質強化に関する基礎歯学と幅広い研究分野を担ってまいりました。学会の64年間の研究成果や研究動向は学会誌に凝縮されているので、雑誌の第1巻からひもとけば40年足らずしか口腔衛生学に携わっていない私であってもすべてがわかったような気になります。例えば、45年も前に「歯周病と骨粗鬆症との関連性」について東北大学の山田丈夫先生が口腔衛生学会誌に発表されています。歯周病の高罹患地域に骨粗鬆症が多いと。そう言えば「う蝕が関節炎の一つの原因」や「歯周病と心内膜炎との関係」についてなど、昔の教科書には病巣感染という用語（今の教科書からは消えています）で説明されていましたね。疫学の元祖的概念からすると、全身疾患の発症抑制のために、歯科医師はう蝕・歯周病の予防・治療に精を出す、行政歯科医は住民のプロモーションと施策の予算を獲得できる格好な理由となり得ます。しかし、我々が関わる健康問題はそのほとんどが慢性疾患であることから、致命的疾患・急性疾患の対策（疑わしければ押さえ込む）のような訳にはいかないですね。特に、EBM至上主義の現代では、政策・戦略策定あるいは保健計画立案・施行に際しても十分なメカニズムの説明（確固たるエビデンス）がつかなくては、優先順位が上位にはなりません。できれば、後述するように生活習慣病対策の一環として口腔保健を位置づけていくことで、実質を獲得する戦略が効果的かも知れません。

歯周病との関連のみならず、口腔の健康と全身の健康との関連性が証明されてきたことから、健康増進法（2002年）新健康フロンティア戦略（2007年）口腔保健に関する道府県市町村条例（2008年～）歯科口腔保健推進法（2011年）に口腔（歯科）が重要な生活習慣病対策の構成要素として取り入れられることになりました。これら法律等の制定に研究（学際的）側面および政治的側面から果たした口腔衛生学会の功績は多大なものであったと会員の一人として自賛しています。特に、世界がかつて経験したことがない超高齢社会に突入したわが国では、高齢者の高いQOL保持や健康寿命延伸を図ることが切実である現状に鑑み、本学会では口腔保健領域から生活習慣病（NCD）予防を絡めた健康科学研究を推進する責務を負っていると思っています。成果の一部は、先進国のみならず近い将来、特にアジアの発展途上国・地域が迎える「Aging Society（高齢社会）」を見据えたWHO口腔保健戦略として活用されています（図1、表1）。

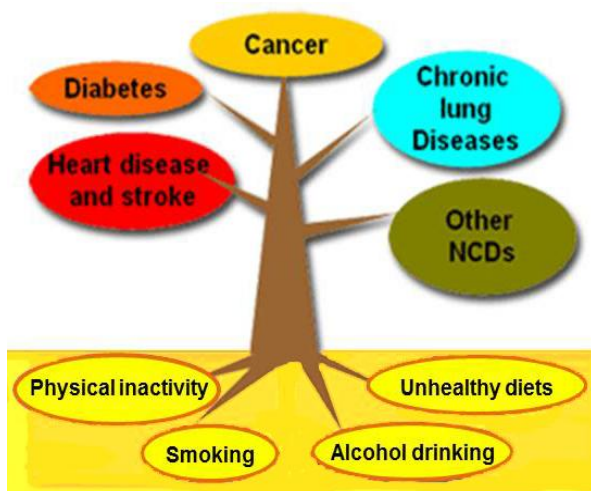


図1 生活習慣病（NCDs）とリスクファクターとの関連（WHO）（口腔疾患は他のNCDsに含まれる）

表1 WHO 口腔保健戦略

- ・口腔の健康は全身健康にとって必須
- ・口腔健康はQOLの決定要因
- ・いくつかの口腔疾患と非感染症疾患（生活習慣病）は共通のリスクファクターに起因する
- ・適切なオーラルヘルスケアは健康寿命を伸ばす

皆様ご承知のように、国民皆保険制度についての2025年問題の対応法について喧しくなってきました。団塊世代が後期高齢期に突入するので、認知症・要介護高齢者の数が急増するということです。歯科分野に期待されているのはおそらく口腔感染予防・処置（口腔ケア）、訪問歯科診療、摂食嚥下リハなのでしょいか。マンパワーと財源の確保をいかにするかが問われ、それに向けた制度設計がなされることでしょうか。どのような仕組みを考えられているのでしょうか。産業界を含め大学でも、口腔ケア・リハに集約しようという流れですね。歯科専門職の一員として、このような大変手間暇かかるけれども、必須な口腔ケア業務に効率的、効果的な方法の開発など何らかの形で参加することに吝かではありません。しかし、考えるまでもなく、後期高齢者の比率のいかに関わらず、健常高齢者少なくとも自立高齢者が多数を占めているはず。これら自立高齢者に焦点を当て、一次予防を通じた生涯にわたる高いQOL維持を求めるのが、口腔衛生学会の保健戦略です。要介護者の絶対数を増加させないことでの社会貢献と捉えます。学会が掲げる具体的な活動方針の7番目に挙げております。「口腔健康と全身健康との関連性を探索し、口腔疾患（う蝕・歯周病・歯の喪失）予防が生活習慣病を含めた全身疾患の予防や改善、健康寿命延伸に果たす役割」を解明することを通して、2, 3番目に挙げた「口腔疾患予防および口腔健康増進に対応する将来の口腔保健システムの構築を行い、そのシステムを科学的・理論的に裏付ける研究成果を蓄積」することです。高齢化では世界のトップを邁進して久しいことから、日本の動向はアジア各国のみならず欧米の口腔保健関係者から注視されています。

また、学会構成員の多様性も本学会の特徴です。大学の教育・研究機関に属する歯科医師・国, 地方自治体の歯科医師・歯科衛生士・地域臨床歯科医・学校歯科医・栄養関連職種や有病者・高齢者介護福祉職種などそれぞれの専門特性を生かし、学際的連携研究の兆しもみえてきました。成果の社会還元として、あらゆる年齢層に応じた、あるいは、全年齢層を一貫した地域（口腔）保健計画立案と施行に対する支援も行っています。さらに、研究のみならず地域に出向くヘルスポロモーション活動は他の学会とは異質の特徴と言えるでしょう。事実、本学会は日本歯科医学会21専門分科会の一つとして、わが国の口腔疾患予防ならびに口腔健康増進にかかわる研究をリードするとともに、生活習慣病予防対策の一つの核として、ヘルスポロモーションに関する政策提言や活動を行っています。これまで「今後のわが国における望ましいフッ化物応用への学術的支援」および「禁煙宣言 - たばこのない世界を目指して」（2002年）や「う蝕のない社会の実現に向けて」（2013年）など学会声明を発してまいりました。

これまで、先人達が人脈を繋ぎ心血を注いできた「口腔衛生学の進歩と発展を図る」（研究）活動は、当然のことながらこれからもエンドレスに続きます。その視点から本学会を俯瞰してみました（図2）。

これはどのような専門性を身につけていこうかと思慮中の歯科学生、キャリア

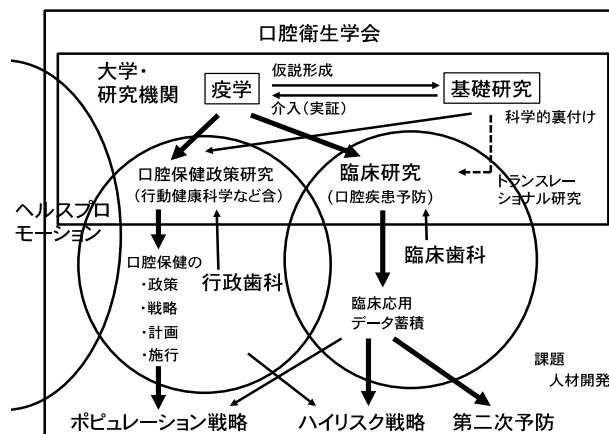


図2 口腔衛生学会内での専門人材の有機的つながり

アップの岐路に立つ大学院生、歯科医師・歯科衛生士にかかわらず都道府縣市町村で歯科保健に携わっている行政官、地域歯科保健に関心を持たれる臨床歯科医師・歯科衛生士、特に、若い人に向けて図示したものです。口腔衛生学会ほど多様な専門性を要求される学会は他にはありませんしチームプレーが必須で緊密な連携なしに学会の進歩と発展は望めないことがわかります。全てに精通したスペシャリストは世界中どこを探してもいません。行歯会の皆様には、これまでの文章をお読みになって「事程左様に、研究室と現場で認識の違いがあるなあ」とお感じかも知れません。行政が指摘する真の口腔保健問題や保健計画・施行上でのニーズなどの提供を通して、口腔衛生学会の新たな研究・活動領域を活性化させていただくようお願いをしたいと思います。同時に、データ解析や結果の解釈などで学会にある専門家集団を利用・活用していただきたいとも思っております。そうすることで、国民の口腔保健の向上に繋がるのであれば学会冥利に尽きるというものです。共に働くことを期待して、私の駄文を終わらせたいと思いますが、研究成果に留まらず、地域保健活動の成果や保健計画の成否などがわかる文書として、学会雑誌（論文や活動報告）に残すことが後に続く仲間への置き土産になるのだなあ（まだ引退もしていないのに）思う今日この頃です。

（平成28年3月29日）

2 近畿ブロック会議

近畿地区府県・政令市歯科保健主管課長会議 報告

奈良県健康福祉部健康づくり推進課 堀江 博



- (1) 府県協議 報告 滋賀県健康医療福祉部健康医療課 小幡 鈴佳
- (2) 政令市協議 報告 京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課 橋野 恵衣
- (3) 中核市協議 報告 大津市健康保険部保健所健康推進課 藤崎 ともみ

去る、平成28年2月5日（金）の午後2時から午後5時までの3時間、滋賀県の大津市保健所が入っている明日都浜大津ふれあいプラザで18回目となる標記会議が開催されましたので概要を報告します。参加対象は近畿2府4県の府県（6：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）、政令市（4：京都、大阪、堺、神戸）及び中核市（10：大津、東大阪、豊中、高槻、枚方、尼崎、西宮、姫路、奈良、和歌山）で例年2月上旬に開催されています。

会議の流れとしては、事務局当番府縣市開会挨拶 → ②出席者自己紹介 → ③厚生労働省医政局歯科保健課からの情報提供 → ④全体協議 → ⑤府県、政令市、中核市別協議及び協議結果報告 → ⑥次回事務局当番府縣市閉会挨拶 という流れが定着しています。平成27年度は事務局当番が大津市で、厚生労働省医政局歯科保健課からは歯科口腔保健推進室の奥田章子係長様をお迎えして出席者総数約50人での開催となりました。

事務局当番の事前準備として、各府縣市に対する提案議案の照会、回答結果の取りまとめ、提案議案に対する取り組み状況の照会及び回答結果の取りまとめがあります。平成27年度は15の提案議題が各府縣市から寄せられました。全ての提案議題に関する協議は時間の制約上無理なので、事務局当番により当日の協議議題と全体協議の指定発言を行う府縣市が決めます。平成27年度は下記の議題について協議を行いました。平成28年度の事務局当番は豊中市です。

- 全体協議
 - ・妊婦や妊娠前の若い世代に対する歯科口腔保健対策について
 - 提案議題説明を兵庫県が行い、指定発言により京都府、大阪府、神戸市、西宮市及び和歌山市が報告を行いました。
 - ・歯周疾患検診マニュアルの改定に伴う対応について
 - 提案議題説明を京都市が行い、指定発言により滋賀県、和歌山県、大阪市、東大阪市、枚方市、尼崎市及び奈良市が報告を行いました。
 - ・一般介護予防事業における、口腔機能向上にかかる取り組みについて
 - 提案議題説明を姫路市が行い、指定発言により堺市、大津市、豊中市、高槻市及び本県が報告を行いました。
- 府縣市別協議

府縣市別協議の報告については、以下の御三方に分担執筆をお願いいたしましたのでこちらをご参照ください。

(1) 府県協議 報告

滋賀県健康医療福祉部健康医療課 小幡 鈴佳



府県協議では、2府4県で下記2つのテーマを検討しました。

「歯科衛生士の復職支援にかかる事業」については、兵庫県、京都府、滋賀県および和歌山県で今年度より開始されており、事業内容は復職支援のための研修事業や実態把握としてのアンケート調査などでした。兵庫県からは、事業で行った調査結果より、「40～50代の子育てに一区切りついた年代では、介護保険施設や在宅などでの復職を望むものの、知識や技術に不安があり復職できない」という課題が明確になったという調査結果をご報告いただきました。

「在宅歯科医療連携室にかかる事業」は、いずれの県でも実施していましたが、連携室の設置数や業務内容については、各府県により状況が異なりました。共通した課題として、「住民への周知不足」があるとのことでしたが、在宅歯科に経験豊かな歯科衛生士が事業に携わることにより、充実した連携室の運営ができたとの報告もあり、連携室に勤務する歯科衛生士の確保も事業のキーポイントだという意見もありました。

(2) 政令市協議 報告

京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課 橋野 恵衣



政令市の協議は、大阪市、堺市、神戸市、京都市の4市で構成され「歯周疾患検診に係る要精密検査区分者の実態把握について」を議題として行われました。堺市の議事進行に従い、まず、各市の現状報告がされました。続いて行った意見交換では、各市の取組や方針への質疑応答が活発に行われ、関心の高さが窺えました。さらに、医療機関や受診者から把握する場合の各々の課題（追跡の困難さ、情報の精度、コスト、マンパワー、予算等）やがん検診と比較した歯周疾患検診の特徴（要精検者割合の高さ等）実態把握の意義、歯周疾患検診の受診率向上といった広範囲に論議が及び、途切れることなく設定時間を越えて終了いたしました。近いようで遠い、遠いようで近い政令市どうし、顔の見える関係を構築するきっかけ作りとしても有意義な協議となりました。

(3) 中核市協議 報告

大津市健康保険部保健所健康推進課 藤崎 ともみ



中核市において、要精密検査区分者の実態把握について検討を行っている市は10市中6市(東大阪、尼崎、姫路、高槻、豊中、枚方)でした。なかでも枚方市においては、次年度実施に向けての協議が進められており、受診票への項目追加と併せて、歯科医療機関に精密検査結果報告書の提出を求めるといった、がん検診の精度管理に倣った方法を予定しているとの報告がありました。また、糖尿病未治療者が要精密検査となった場合には、医科へ紹介するよう流れの整備も進められており、医科歯科連携の強化を踏まえた取り組みの方向性を示されました。一方、実態把握について検討に至っていない市からは、これまで積み上げてきたデータとの比較・分析に関しての問題や、現状、歯科医療機関から正確な検診結果の報告がされていないなかでの様式変更は困難といった意見が述べられました。今後、具体的な取り組みを進めている市を参考に、関係機関との協議を重ねていく必要性があります。

3 千葉県市町村歯科衛生士新任者研修会

《報告》千葉県健康福祉部健康づくり支援課
食と歯・口腔健康班 林 瞳
(歯科保健担当：管理栄養士)



千葉県では、平成27年12月11日(金)に千葉県内の自治体に採用されて5年未満の歯科衛生士を対象とした新任者研修会を開催しました。(産休・育休期間を除いて5年未満となる者も対象としました。また、5年以上の場合も一部の内容は参加可としました。)

千葉県54市町村のうち35市町に91名の常勤の歯科衛生士が配置されています(平成27年4月1日現在)。その内採用されてから5年未満の歯科衛生士は22名であり全体の24.2%を占めています。

千葉県の行政歯科衛生士に、世代交代が訪れたことや、初めて歯科衛生士が配置された自治体もあり、各自治体で歯科衛生士に特化した研修会を行うことは人数の関係等から実現することは難しいということから、千葉県全体として新任歯科衛生士の研修会を開催することとしました。

<新任者研修会のプログラム>

1. 講演①「歯科保健行政の現状と今後の展開」 国立保健医療科学院 安藤雄一先生
2. 千葉県の歯科保健行政について
3. 講演②「行政歯科衛生士の役割」東京歯科大学 副学長 石井拓男教授
4. 体験談 I 経験10年程度の歯科衛生士 船橋市 技師 吉野ゆかり氏
II 経験30年程度の歯科衛生士 市原市 主査 高澤みどり氏
5. グループワーク～理想の歯科衛生士とは。理想に近づくために必要なこと～

<アンケート結果の概要>

※複数の記載があった内容に絞らせていただきました。

① 講演会で、今後の仕事に活かせる内容など印象に残っている話について教えてください。

講演①「歯科保健行政の現状と今後の展開」

- ライフステージ別にみた事業の進め方、対象へのアプローチ方法
- 「歯の喪失」というメインアウトカム、エンドポイントを明確にすること。(これまで漠然と業

<p>務を行っていた、目先の目標の更に先を意識した事業展開につながる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 少数職種であるが故の、他職種との連携の大切さ。 <p>講演②「行政歯科衛生士の役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行政歯科衛生士は、法律、指針、条例等をよく理解することが重要。 ● 歯科保健を推進するには法律等を根拠に施策を考えること。法律を理解することが、事業を進めていく上での根拠となること。 ● 行政歯科衛生士は、「県や国の流れを知っていないてはならない。知らないようではただの市民」という言葉。 <p>*その他、各自印象に残った箇所は様々であった。今後はこうしていきたい、今まで気づいていなかったなど、気づきを得られた参加者が多かった。</p>
<p>② 体験談は、今後のキャリアビジョンを考える上で、どのような内容が参考になりましたか。</p> <p>経験10年目程度の体験談</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 共感できることが多く、今後の仕事の励みになった。自分1人の悩みではないことが分かった。 ● 同じ悩みを持っていたことが分かり、恐れず経験することで自信に繋げることができると感じた。また、その悩みに対する具体的な解消法がとても参考になった。 ● 将来壁にぶつかっても、今回の話を聞いたことで解決できそうだと思うことができた。 ● 今だから分かる「やっておけば良かったこと」が仕事を進める上でとても参考になった。 <p>経験30年目の体験談</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 将来チャレンジしてみたい内容だった。 ● 行政歯科衛生士としての理想像として参考になった。 ● やりがいを持って仕事をしている姿を見て、将来どのようなことができるのか考えるきっかけになった。 ● 自己研鑽のために研修会に参加することの大切さを知った。 ● 保健師からはたくさんのが学べること。 <p>その他の内容として（2つの体験談から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体験談はとても参考になった。 ● これから自分が何をすべきか考えることができた。 ● 横のつながりを作ることの大切さ。
<p>③ グループワークによりどのような考えを得ることができましたか？（グループワーク前後で変化したことはありますか？）</p> <p>*テーマはあるものの、とにかく楽しく何でも話してくださいとアナウンスしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他市町村の歯科衛生士と交流できたことが有意義であり、良い機会だった。 ● 他の人たちも、自分と同じ悩みを抱えていたことがわかり、安心したとともに自分も頑張ろうと思えた、モチベーションを高めることができた。 ● 経験年数の近い歯科衛生士と出会えたことは大きな収穫であり、横のつながりができた。
<p>③ 今後も、新任者研修会は必用と思いますか。またどのような内容がふさわしいと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新任者に関わらず行政歯科衛生士向けの研修会は必要という意見が多数 ● 今回のグループワークのような他市町村との交流会。時間がもっとあると良い。 ● 今回の研修会のような構成。 ● 前以て、各自治体の事業の状況（相談したいこと、欲しい情報は何か）を把握し、研修会を組み立てて欲しい。 ● 具体的な事業内容の講演（フッ化物、歯周病、分析方法など）

<担当者としての新任者研修会の考察>

新任者研修会で各論まで取り上げる予算は残念ながらなかったため、最も必要と思われた内容に絞った結果の構成でしたが、新任者研修会として必要な要素が、本研修会で少なからず見つけることができたと思えました。また当初から新任者同士が交流を図れる場作りも目的としてグループワークを実施し、多くの参加者が交流を図ることのメリットを感じてもらえたようでした。

アンケートから、2つの講演で、参加者は現在の仕事の仕方を見つめ直し、今後の仕事の仕方に多かれ少なかれ影響を受けたようでした。安藤先生の講演では各ライフステージ別の事業の進

め方を具体的に聴き、今の事業の最終目的はどこにあるのかという明確な答えが導き出され、今後の事業に対する各自のモチベーションを高めることができ、新たな事業展開への道標になったのではないかと感じています。石井先生の講演では、行政歯科衛生士として最も根っこにあるべき法律等の理解や活用が実は今まで出来ていなかった、又は気づいていなかったという参加者が多かったようで、もっと勉強したいという気持ちが強くなったようでした。両講演を通し、採用されたばかりで、行政歯科衛生士の役割がぼんやりとしか見えてなかった参加者には、その輪郭がはっきりとしたのではないのでしょうか。また目前にある仕事に没頭しすぎていた、事業の展開に滞りを感じ今後の進め方を迷っていた参加者にとっては、現状を打開するヒントにもなったようでした。

また、先輩歯科衛生士お二人の財産でもある体験談は2つの世代で話していただけたことが参加者の仕事に関する過去、今、将来のイメージを作ることに貢献できたと感じています。自分に近い立場であれば共感でき、今の不安は自分だけのものではなく、誰もが通る道なのだと思うことが、明日からの仕事の頑張りへとつながります。ベテランの先輩の話からは、将来像を描くことができ、今後の仕事の方法・考え方に良い影響を与えることができます。何よりも、行政歯科衛生士の体験談は参加者にとって勇気づけられるものだったようです。さらに、先輩歯科衛生士の2人は具体的に事業内容やその時の悩みをどのように解決したのかを示してくれたため、参加者も悩み解決への糸口が見つけられた様子でした。

グループワークは、ワールドカフェ方式を参考にグループメンバーを入れ替えながら、できる限り多くの参加者と交流を図れるようにしました。また、テーマはあるものの、あまり意識せず話したいことを話してもらい、結果発表も無しにしたところ、参加者間で活発な交流が行われ互いに刺激を与えあうという効果をもたらしたと感じます。経験年数が同程度の者同士、悩みや境遇も似ていることが分かり、相手の話に励まされ、自分も頑張ろうと思えるようでした。グループワークでは、自己紹介を必ず入れ、名刺を持っている場合は名刺交換を行っていたため、横のつながりにも発展していました。

参加者が1日真剣に研修会を受け、アンケートにたくさんの思いや考えを記入してくださいました。担当者としても大変嬉しく思っています。また最後になりますが、本研修会を開催するにあたり、1年以上前から相談に乗ってくださった行政歯科衛生士の皆さま、石井先生に繋げてくださった神奈川県の中條様に深く感謝申し上げます。

《感想》 千葉県船橋市西部保健センター

吉野ゆかり



昨年12月に千葉県内の新任期の歯科衛生士を対象とした研修会が開催されました。当日は、国立保健医療科学院の安藤雄一先生より「歯科保健行政の現状と今後の展開」、東京歯科大学の石井拓男教授より「行政歯科衛生士の役割」というテーマでそれぞれご講演をいただきました。そして県の歯科保健担当者の方より千葉県の歯科保健行政についてのお話と、経験10年程度、30年程度の先輩歯科衛生士の体験談があり、最後にグループワークと内容盛りだくさんの1日となりました。

千葉県には行政に勤務する歯科衛生士がたくさんおりますが、近隣市の歯科衛生士にはブロック毎の研修等で顔を合わせることもあっても、ブロックが異なると全くと言っていいほどお会いする機会がありません。私もほとんどの方が初めてお目にかかる方ばかりでした。

グループワークは「理想の歯科衛生士とは。理想に近づくために必要なこと」をテーマとし、安藤先生の粋な計らいでBGMが流れるリラックスした雰囲気の中、どのグループも名刺交換から始まり、それぞれの自分の現状などを話しながら、活発な意見交換を行っていました。1時間ほど時間がありましたが、まだまだ話し足りない様子が見受けられました。



この研修を受けて、歯科衛生士である前に行政マンであることを忘れずにいたいと思いました。石井先生からお話のあったように、まず法律や条例を知って読みこなし、それを根拠として事業の提案をしていくこと、そして地域にある資源を有効活用していく調整役であることが、行政に勤務する歯科衛生士に課せられている任務であることを改めて実感しました。

そして安藤先生の講話の中で、全国的に行政の歯科保健担当で最も多い職種は保健師であるというお話がありました。千葉県は、日頃から地域の方とふれあえる住民サービスの最前線の間である市町村に歯科衛生士が多く配置され、歯科保健業務を担っています。つまり、地域に密着している公衆衛生マインドを持った歯科衛生士の視点で、地域診断を行い、その地域の特性に合わせた歯科保健施策を企画立案していくことが可能であり、もしかしたら、それこそが千葉県の歯科保健の強みであるのではないかと感じました。

この研修の場で、県内の新任期の歯科衛生士の中に共通認識を持てたこと、そして大きな横のつながりができたことは、千葉県にとって非常に心強く、またパワーある若手の皆さんと一緒に、今後の千葉県の歯科保健を盛り上げていけたらと感じます。

私は先輩歯科衛生士の立場で、研修にも同席させていただきました。まだまだ若手だと思っていましたが、もう中堅期に入ってきていることを痛感しました。今回、私のこれまでの経験をお話しさせていただくことで、一度立ち止まって自らを振り返ることができたこと、そして今後のキャリアビジョンを考えられたことは、私にとっても大変有意義な時間となりました。

今回の新任者研修の企画運営にご尽力いただいたすべての皆様に、心から御礼申し上げます。是非、次回は中堅期の研修もお願いしたいです。

4 若手奮闘記 No. 8

高知県須崎福祉保健所健康障害課 歯科衛生士 柳本祥子



【はじめに】

行歯会の皆さま、こんにちは。高知県須崎福祉保健所健康障害課の柳本と申します。いつも『行歯会だより』やメーリングリストを拝見し、勉強させていただいております。

この度、若手奮闘記の執筆についてお話をいただきましたので活動を紹介させていただきます。

【自己紹介】

私は、平成15年に歯科衛生士免許を取得したのち、地元の一般歯科医院や病院（介護療養型医療施設）に勤務していました。そんな中、高知県の歯科衛生士の募集があり、平成21年度に高知県に入職することになりました。

実は、学生時代は保健所実習を経験しておらず、行政の歯科衛生士の役割や業務を知らないまま採用となったため、何もかも初めての体験で、手探り状態でした。また、同じ職場に歯科衛生士が複数配置されておらず先輩方に毎日のように電話をしたり、同じ職場の他職種の皆さんに教えていただいたりしながら行政歯科衛生士がスタートしました。

【高知県の歯科保健の取組について】

高知県では平成23年4月に、県民の皆様が、生涯を通じて歯と口の健康づくりに積極的に取り組んでいただくとともに、適切な時期に歯と口の保健サービス、医療等を受けることができる環境を整備することを基本理念とする「高知県歯と口の健康づくり条例」が施行され、翌年4月からは「高知県歯と口の健康づくり基本計画」がスタートしています。

また、本県の歯科専門職は、歯科医師1名と歯科衛生士6名の7名で、歯科医師・歯科衛生士1名が本庁（健康長寿政策課）、5つの福祉保健所に歯科衛生士が1名ずつ配置されているという体制です。

年代	乳幼児期 (0-5歳)	少年期 (6-14歳) 学齢期(6-17歳)	青年期 (15-24歳) 成人期~壮・中年期(18-64歳)	壮・中年期 (25-64歳)	高年期 (65歳-) 高齢期(65歳-)
（年代別） 保健行動・ 生活習慣の 目標	食生活への配慮(生活習慣)				
	フッ素塗布				
	フッ素洗口				
	フッ素入り歯磨き剤				
	シーラント				
	歯科医・歯科衛生士による歯石除去、歯面清掃(PMTC)等				
	歯科健診				
	歯みがき				
	歯間清掃用具(フロス又は歯間ブラシ)				
	禁煙				
口腔機能向上・ 口腔清掃					

【須崎福祉保健所における私の担当業務について】

私は現在、須崎福祉保健所健康障害課健康増進担当チームに所属しています。

担当業務としては、歯科保健の推進だけでなく、たばこ対策、職場における健康づくり推進、がん対策、市町の健康増進計画の評価等の支援、健康づくり団体支援、原爆被爆者健康診断等幅広い業務を担当しています。

歯科保健の主な取組は、次のとおりです。

子ども対策	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物応用推進事業 ・保護者向け間食に関する指導（検討会・媒体作成等）
成人対策	<ul style="list-style-type: none"> ・6024 歯援隊（しえんたい） 歯科保健調査
その他 (市町支援等)	<ul style="list-style-type: none"> ・高幡地域歯科保健連絡会 ・市町主催の歯科保健検討会での協議 ・地域歯科衛生士の資質向上を目的とした研修会の開催

成人歯科保健対策では、「6024 歯援隊」による歯科保健調査を実施しています。「6024 歯援隊」は、圏域の歯科保健対策を検討する「高幡地域歯科保健連絡会」で結成し、地域歯科衛生士が中心となり、特に成人歯科保健対策を推進するために活動をしています。

平成27年度は、管内のT町において歯科保健調査を行いました。成人歯科の現状把握が難しく、また、市町ごとのデータが少ないことが背景にあり、さらに、T町の健康増進計画中間評価の時期にあわせ実施することで、計画最終年度に向けた健康増進計画の取組に反映することも目的の一つとしました。T町は、6024 を目指して、3年前から総合健診の受診者に対しアンケート・口腔観察・歯科保健指導を実施しています。今年度は、総合健診の場に加え、事業所健診の受診者に対し歯科保健行動に関するアンケートと歯科衛生士による口腔内観察を実施しました。

調査では、健診の流れの中で歯科ブースに立ち寄っていただくようなセッティングを行い、地域歯科衛生士と行政歯科衛生士による口腔観察で現在歯数や口腔評価指数等をチェックするとともに、アンケートや聞き取りで、定期歯科健診の受診状況、一日の歯磨回数、喫煙の有無等歯科保健行動を調査しました。また、口腔観察や歯科保健行動の情報を基に、個別で歯科保健指導も実施しました。

事業所健診での調査では、自ら歯科医院や健診受診といった行動をとることの少ない無関心とこれほど向き合ったのは初めてではないかとあらためて思いました。しかし、悩んでもいられません。無関心にも関わらず歯科保健指導の場に来てくださった（来てしまった？）受診者を逃したくないという思いから、対面した時にできるだけ心をシャットアウトされないように話し方等対応に心を配りました。

歯科相談では、最初は無関心層かと思われた方も、実は口の中で気になるところがあるようで、受診者の方から質問されることもありました。このような機会が定期的であれば、歯や口への関心を持つことや歯科保健行動の実施につながるのではないかと感じました。

この調査では、ベテラン歯科衛生士からノウハウを学ぶとともに、日頃の福祉保健所の業務の中ではほとんど行うことのない保健指導を経験することができました。調査実施後は、結果をT町の健康増進計画中間評価に反映させるべく、分析に取り組んでいます。

【これから】

行政職としても歯科専門職としても未熟だと痛感することが多い毎日です。また、歯科保健だけでなく、たばこ対策や地域職域が連携した健康づくり等多くの業務を担当していることから、日々経験と学習と情報収集を積み重ねていかないといけないと強く感じています。

行政歯科専門職・保健師等専門職の皆様など多くの方々から学び・背中を押されながら、成長し、地域に貢献できたらと思います。

今後ともよろしく願いいたします。



© 2000 やなせたかし/高知県

高知県歯の健康キャラクター プロフィール

- 長男：デンちゃん（長男らしくしっかり者。牛乳とおジャコが大好き、ご飯は50回噛むことがポリシー）
- 次男：歯をまもる君（はみがきしないと気がすまない1番の歯磨き好き。几帳面な性格）
- 三男：ハハハのはーちゃん（ちょっとやんちゃなハーちゃんいつも笑っている憎めない性格）

出生地：はみがき星 高知に来た日 2004年4月18日（よい歯の日）
生い立ち：はみがき星では大きくなると色んな星に行ってはみがきの大切さや歯の健康を教えることがルール。ある時、大臣から地球の担当として任命された3人が最初に降り立ったのがニホンのコウチケンというところ。すっかり気に入った三人はここで活動することに...

お知らせ

平成28年度研修等のご案内

< 国立保健医療科学院 研修予定 >

□ 長期研修

- 保健福祉行政管理分野（本科） 28.04.13～29.03.03
- 保健福祉行政管理分野分割前期 28.04.13～07.15
- 保健福祉行政管理分野分割後期 分割前期の履修年度を含めた3年間
- 地域保健福祉分野 28.04.13～29.03.03

□ 短期研修

- 歯科口腔保健の推進のための企画・運営・評価研修
遠隔研修 28.7.1-7.15(金) 集合研修 28.07.19～07.22
- 地域医療連携マネジメント研修 28.07.11～07.15
- 疫学統計研修 28.07.06～07.08
- 保健医療事業の経済的評価に関する研修 28.09.12～09.14
- 地域保健支援のための保健情報処理技術研修」28.11.28～12.09
-

詳細は下記 URL を参照ください

<http://www.niph.go.jp/entrance/h28/index.html#long02>

※研修会・講習会等お知らせください。

☆ 編集後記 ☆

新年度のはじまりで、皆さま、お忙しいところと存じます。
新たな気持ちで、今年度も歯科口腔保健に携わり、情報をお伝えするお手伝いできればと思っています。よろしくお願いいたします。(H)

平成28年度がスタートしました。いつもバタバタしていますが、皆さまから寄せられるホットな情報をすばやく提供できるよう頑張ります。
本年度もどうぞよろしくお願いいたします。(T)

「歯っとサイト」 掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

では、掲載コンテンツを募集しています。

- ・ Web 媒体（リンクをはる）場合は、下記 URL へ

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/youbou.html>

- ・ PDF 等のファイル媒体での提供も可能です。

希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛に御連絡ください。